

いつもなにかがあたらしい

東京ニューシティ管弦楽団 第97回定期演奏会

自国への愛と世界へのあこがれ



深井史郎 Shiro Fukai

パロディ的な四楽章

Quatre mouvements parodiques

尾高尚忠 Hisatada Otake

チェロ協奏曲 作品20

Cello concerto, Op. 20

ドヴォルザーク Antonín Dvořák

交響曲第8番

ト長調 作品88

Symphony No. 8 in G major, Op. 88

大井剛史が初登場!

熱く誠実なタクトで

日本の心と独自の世界観を披露!

尾高尚忠作曲のチェロ協奏曲を

話題のチェリスト遠藤真理が挑む!



指揮:大井 剛史
Takeshi Ooi

photo:K.Miura



チェロ:遠藤 真理
Mari Endo

©.Fujitaつみ

2015年1月24日(土) 14:30開演
13:30ロビー開場
東京芸術劇場コンサートホール
(池袋駅西口より徒歩2分)

料金(全席指定) S:6,000円/A:4,500円/B:3,000円/C:2,000円

学生半額(25歳以下、S席を除く) 小中高生1,000円(保護者同伴、S席を除く)

シニア割10%引き(60歳以上) 友の会会員10%引き(随時入会受付 年会費500円)

※上記割引については事務局までお問い合わせ下さい。

9月29日(月)一般発売開始!!

東京ニューシティ管弦楽団事務局(平日10:00~18:00)
チケットダイヤル:03-5933-3266 FAX:03-6766-3782
ホームページからもお申込みいただけます。http://tnco.or.jp

チケットぴあ(Pコード:236-317) TEL:0570-02-9999 http://www.t.pia.jp
東京芸術劇場ボックスオフィス TEL:0570-010-296(ナビダイヤル)
東京文化会館チケットサービス TEL:03-5685-0650 http://www.t-bunka.jp
イープラス http://eplus.jp (パソコン&ケータイ)

※未就学児のご入場はご遠慮ください。
※やむを得ず、出演者・演目が変更になる場合がございます。ご了承ください。

【主催】一般社団法人 東京ニューシティ管弦楽団
【後援】豊島区、豊島区教育委員会

【助成】文化芸術振興費補助金
(トップレベルの舞台芸術創造事業)

M
文化財
企業メセナ協議会
助成認定活動

日本音楽史へのオマージュ、そして世界への飛躍——。
音楽との「巡り会い」に思いを馳せる。

歴史に「もしも……」は禁句だが、一方で、「もしも……」が想像をたくましくさせるのも事実だ。

「彼はまぎれもなく極めて才能のある人物で」とブラームスが、国家奨学金を交付するための選考試験に臨んだドヴォルザークの作品を審査してその天分に惚れ込み、知己の有名楽譜出版社に「彼の作品を出版してほしい」と手紙を出すという歴史の1ページがあった。このことでその後のドヴォルザークの運命は世界へと開けて行くのだが、ここで「もしもあの日」ブラームスが審査に当たっていなかったら……、録音や放送媒体のない時代、唯一の音楽伝播手段である楽譜出版によって「もしも」作品が広く知られなかったら……音楽史は少しは変わっていたのだろう。

東京ニューシティ管弦楽団第97回定期演奏会を指揮する大井剛史。最近、めきめきと力をつけてきたこの俊英にも「あの日」があった。高校2年生の時に触れた尾高尚忠のチェロ協奏曲(1943)。それは心動く強烈な「巡り会い」だった。そして今、日本人の作品、しかも隠れた愛すべきこの名作を広く知らしめることが若手指揮者の責務と考え、注目の若手チェリスト遠藤真理とタッグを組み、新たな「蘇生」を願う。また、深井史郎の代表作『パロディ的な四楽章』(1936)は、80年近く前の日本楽壇でヨーロッパのモダニズムがどのように消化されたのかを示す、これまた貴重な演奏機会だ。今回のコンサート前半は日本楽壇の歴史の一翼を担った二人の作曲家への、大井剛史によるオマージュなのだ。

そして、後半はドヴォルザークの第8交響曲。次から次へと溢れ出る美しいメロディー、そして郷愁と共感。ドヴォルザークの交響曲中、最もボヘミアののどかな風土を想起させ、聴くものの心をはっきりとつかんでしまう独創的な構成で世界の人々から愛される人気曲だ。まさに、「あの日」のブラームスの目利きは正しかったことを証明している。大井剛史、この名曲に渾身の情熱を傾ける。

私たち音楽愛好家にはそれぞれに「もしも、あの日、あの作品、あの演奏に巡り会わなかったら……」という思いがひとつ二つあるものだ。今回の定期演奏会が、またひとつ、新たな「あの日」の音楽体験になることを願いたい。

大井 剛史 (指揮) Takeshi Ooi (Conductor)



Photo K. Miura

東京藝術大学および大学院にて松尾葉子氏に師事、故若杉弘、故岩城宏之、レヴァイン、マズア、ジェルメティ、カラブチェフスキーの各氏から指導を受ける。2000～01年、仙台フィルハーモニー管弦楽団の副指揮者として研鑽を積み、2007～09年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。現在、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉常任指揮者、山形交響楽団正指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者を務める。その他、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、群馬交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団など国内各地のオーケストラを指揮し、いずれも高い評価を得ている。新進作曲家の現代作品や、吹奏楽、オペラ、バレエ、など幅広い分野で意欲的に活動している。08年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール第2位。

遠藤 真理 (チェロ) Mari Endo (Cello)



(C) 中山かつみ

2003年第72回日本音楽コンクール第1位。06年「プラハの春」国際コンクールにて第3位(1位なし)、08年エンリコ・マイナルディ国際コンクールにて第2位。

07年ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学マギスター課程を満場一致の最高点で卒業し、小林研一郎、飯森範親など数々の指揮者のもと、国内主要オーケストラと共演。また、ウィーン室内管、プラハ響など海外オーケストラとも共演し、高い評価を得る。10年NHK大河ドラマ「龍馬伝」にて「龍馬伝紀行」テーマ曲を演奏し、12年4月から現在に至るまでNHK-FMのクラシック音楽番組「きらくら！」(毎週日曜日/全国放送)にてパーソナリティを務めている。CDは、3枚のソロアルバムと、川久保陽紀(ヴァイオリン)、三浦友理枝(ピアノ)とのトリオアルバムがリリースされている。09年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞した。

オフィシャル・ウェブサイト <http://endomari.com>

チケット
お申込み
について

事務局チケットダイヤルでのお申込み

Tel: 03-5933-3266

※平日 10:00～18:00

Fax: 03-6766-3782 E-mail: ticket@tnco.or.jp

ネットでのご予約も

座席指定が可能になりました!

<http://tnco.or.jp/>

※会員登録(メールアドレスとパスワード)が必要です(無料)。

●ファミリーマートで代金決済・チケット受取ができます。
●クレジットカードでの決済も可能になりました。
●事務局よりチケットを送付することもできます。
※どの場合も所定の手数料をご負担いただきます。